今里駅 40分コース

Osaka Metro まちさんぽ

千日前線・今里筋線 今里駅

暗越奈良街道の今里

5代目松鶴の楽語荘があった芸人の町・片江へ

片江町の自宅を「楽語荘」と称して若手落語家の拠点とし、戦中戦後に衰退していた上方落語の土壌をつくった5代目笑福亭松鶴。ふくよかな顔つきの「昭和の爆笑王」で、片江から多くの逸材を育てました。人間国宝・3代目桂米朝もその一人です。

スタート駅 今里駅 ①号出口 今里筋線 千日前線

約40分

1 4代目桂米團治顕彰碑
2 大阪セルロイド会館
3 暗越奈良街道・道標
4 (今里西之口公園) 謎のコンドル
5 熊野大神宮
6 妙法寺・契沖
7 火袋式道標
8 赤レンガ倉庫
9 芸人の町・片江顕彰板
10 片江七福橋 平野川分水路

ゴール駅 新深江駅 千日前線

このあたりはかつて暗越奈良街道と北八尾街道が分岐する街道の結節点で、今でも今里交差点は五差路の交通の要衝です。室町時代に湿地を開拓した「新しい里」として認知され、秀吉の太閤検地によって今里という名前が付けられました。

今里駅 40分コース

Osaka Metro まちさんぽ

千日前線・今里筋線 今里駅

暗越奈良街道の今里

5代目松鶴の楽語荘があった芸人の町・片江へ

片江町の自宅を「楽語荘」と称して若手落語家の拠点とし、戦中戦後に衰退していた上方落語の土壌をつくった5代目笑福亭松鶴。ふくよかな顔つきの「昭和の爆笑王」で、片江から多くの逸材を育てました。人間国宝・3代目桂米朝もその一人です。

スタート駅 千日前線・今里筋線今里駅①号出口 ― 約40分 ― ゴール駅 千日前線新深江駅

1 4代目桂米團治顕彰碑

4代目桂米團治は「楽語荘」に参加する一方で、代書人（行政書士兼代筆業）の営業許可を得て東成区役所の近隣（現区役所敷地内）で営業し、その経験から創作した落語『代書』（『代書屋』とも）で爆発的な人気を得ました。人間国宝となった3代目桂米朝の師匠でもあります。碑には自作川柳「儲かった日も代書屋の同じ顔」が5代目米團治の筆で書かれています。

2 大阪セルロイド会館

このあたりは江戸時代から櫛、簪の製造が盛んで細工技術の蓄積があり、明治以降はセルロイド、マッチ、金網などの軽工業が地場産業として定着しました。なかでもセルロイド工業は新素材として脚光を浴び、日用小物や玩具などが輸出されました。大阪セルロイド会館は昭和6年（1931）の最先端の昭和モダニズム建築です。

3 暗越奈良街道・道標

暗越奈良街道は大坂と奈良を最短距離で結び、古代では大仏開眼に招かれたインド僧や鑑真和上、唐使節も通った平城京への主要路でした。江戸時代には参勤交代の街道にもなり、伊勢詣でにも利用されて1日に7〜8万人の通行者で賑わいました。

4 謎のコンドル（今里西之口公園）

神武天皇が東征して大和地方の長髄彦と戦っていたときに、金鵄（金色のトビ）が天皇軍を勝利に導いたという神話から製作されたといわれ「謎のコンドル」と呼ばれています。かつて東征の道は暗越奈良街道だと想定されて、「神路」という町名も現存しています。

5 熊野大神宮

用明天皇2年（587）に創建された古社で、伊弉冊尊ほか5柱を祀る旧大今里村の氏神です。何度か再建され、江戸時代には熊野権現と称していました。明治5年（1872）に熊野大神宮と改め、のちに旧東今里村氏神の八劔神社を合祀しました。

6 妙法寺・契沖

妙法寺は江戸時代、『万葉集』の注釈書『万葉代匠記』を著した著名な国学者・契沖が11年間住職を務めた寺院で、境内に遺跡があります。商売繁盛の大黒天が祀られ、「南には今宮の戎、東には今里の大黒」と信仰されました。

7 火袋式道標

ろうそくを灯して夜間の物資運搬の目印とした灯籠型の道標です。側面に「江戸積 釘問屋」、「左ならいせ道」「右八尾久宝寺」と書かれ、かつては暗越奈良街道から北八尾街道への分岐点に建てられていました。

8 赤レンガ倉庫

可燃性のセルロイドを保管するために建てられた赤レンガ倉庫で、今里のセルロイド工業の盛況を伝える貴重な産業遺産です。現在も倉庫や店舗として利用されています。

9 芸人の町・片江顕彰板

昭和7年（1932）に2代目笑福亭枝鶴が片江町に転居し、漫談家・花月亭久里丸、続いて漫才師・横山エンタツ、都家文雄も住みはじめて、芸人の町が形成されました。昭和10年（1935）に2代目枝鶴が大名跡5代目松鶴を襲名すると、自宅を「楽語荘」と称して同人を募り、落語集『上方はなし』を発刊するなど若手の育成、落語の保存に尽力しました。戦後に衰退していた上方落語が片江から勢いを盛り返し、6代目笑福亭松鶴、5代目桂文枝、2代目笑福亭松之助、3代目桂米朝（人間国宝）、4代目桂米團治、3代目桂米之助といった多くの逸材が育ちました。

10 平野川分水路・片江七福橋

平野川の洪水対策として平野川分水路が昭和33年（1958）に開削されました。分水路へは八尾や平野区方面からの川水が分流されて、洪水による被害は著しく減少しました。北八尾街道に沿って片江七福橋が斜めに架橋されています。

文中の「おおさか」表記には、一般呼称や明治以降については「大阪」、江戸時代以前については「大坂」を使っています。
なお、掲載している情報は2025年12月時点のものです。内容は変更されている場合があります。

発行：Osaka Metro
協力：一般社団法人大阪あそ歩委員会　（お問い合わせ先）大阪あそ歩 info@osaka-asobo.jp
後援：歴史街道推進協議会

このコースや他のコースの〈ガイド付きまち歩き〉については、下記の「大阪あそ歩」のホームページをご覧ください。

https://www.osaka-asobo.jp または 大阪あそ歩 で検索

ご注意

※まち歩きには歩きやすい服装で、足下や車などの往来に十分注意し、事故のないように各自で責任をもって行動してください。
※プライバシーにかかわる場所での写真撮影や大声での談笑はご遠慮ください。住宅敷地内での写真撮影は厳禁です。

ご案内

※駅スタンプは駅長室付近に設置しています。参加記念にぜひ押印してください。

Osaka Metro × 大阪あそ歩 × 歴史街道　毎月第1金曜日発行

駅スタンプ押印欄

制作：大阪あそ歩委員会・茶谷幸治　編集：伏見佳子　デザイン：たばるかつこ　イラスト：櫻井さなえ